

北日本漁業経済学会 ニューズレター

第45回 福島県福島市大会報告

2016年9月23日（金）、24日（土）の両日にわたり、福島県福島市・コラッセふくしま・5階小研修室において、第45回北日本漁業経済学会大会が開催されました。

今大会では「原子力災害下の試験操業の取り組みと漁村の展望」と題してシンポジウムを、また「福島県沿岸への原発事故影響と水産資源」と題してミニシンポジウムを企画し、全体で70余名の参加者を得て、下記の通り、シンポジウム、ミニシンポジウム、一般報告、総会および懇親会を滞りなく実施することができました。シンポジウムのコーディネーターと司会を勤めて頂いた濱田武士（北海学園大学）・林 薫平（福島大学）、宮澤晴彦（北海道大学）、ミニシンポジウムの企画・司会を担当して頂いた尾形康夫（福島県水産試験場）、二平 章（茨城大学）、片山知史（東北大学）の各氏をはじめ、報告者、参加者及びご協力頂いた全ての皆様に厚く御礼申し上げます。また、本大会は福島県・地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会、福島県漁業協同組合連合会、福島県生活協同組合連合会、生活協同組合コープふくしま、北海道漁業協同組合連合会の後援をいただきました。ここに記し、関係各位に改めて謝意を表します。

ミニシンポジウム（9/23）

会場；福島市・コラッセふくしま・5階小研修室

テーマ；福島県沿岸への原発事故影響と水産資源

コーディネーター：尾形康夫（福島県水産試験場）・二平 章（茨城大学）
司会：片山知史（東北大学）

趣旨説明：原発事故の水産資源への影響とモニタリング

尾形康夫（福島県水産試験場）

＜報告＞

1. 水産生物における放射性セシウム濃度の推移 渡邊昌人（福島県水産試験場）
2. 福島県における放射能研究の取組と今後の課題 根本芳春（福島県水産試験場）
3. 震災後の底びき網漁業における試験操業データからみえる資源状況の変化 鈴木 聡（福島県水産試験場）
4. 震災後の主要カレイ類資源における操業自粛の影響と将来予測 水野拓治・鈴木 聡（福島県水産試験場）

大会シンポジウム（9/23・午後）

会場；同上

テーマ；原子力災害下の試験操業の取り組みと漁村の展望

コーディネーター：濱田武士（北海学園大学）・林 薫平（福島大学）

1. 解題：原子力災害がもたらしている漁業復興の問題 濱田武士（北海学園大学）
2. 福島県漁業の被害と試験操業の展開 八多宣幸（福島県漁連復興対策チーム）
3. 試験操業における検査・流通問題と消費対策 林 薫平（福島大学）
4. トリチウム汚染水問題～住民目線から海洋放出案と水蒸気放出案の是非を問う
野中俊吉（コープふくしま専務理事・トリチウムタスクフォース委員）
5. 福島県下の被災漁業者の動向 乾 政秀（水土舎）
6. 浪江町の水産復興の現状と経過 阿高麦穂（東京海洋大学大学院）

総合討論 司会・宮澤晴彦（北海道大学）

懇親会；コラッセふくしま最上階レストラン「きいちご」



一般報告（9/24）

会場；コラッセふくしま・5階小研修室

1. 宮城県養殖ギンザケの生産復興状況と流通課題
清水幾太郎（北水研）・樽井義和（東北水研）・高橋義文（九大）
2. 尖閣諸島を漁場とする日本漁船の操業と経営の課題
－底魚一本釣り漁業に注目して－ 佐々木貴文（鹿児島大学）
3. 栽培漁業の展開と都道府県三セク法人 中村彰男（秋田県栽培漁業協会）
4. シジミ漁業管理の経営経済的有効性に関する検証
－網走湖シジミ漁業を事例として－
山崎優輔（北海道大学大学院）・宮澤晴彦（北海道大学）・藤井陽介（水産大学校）
5. 第2期に入った「太平洋クロマグロ資源管理」 上田克之（水産北海道協会）
6. 寡占化する国際サケ市場と多様化する日本の地域サケ市場
清水幾太郎（北水研）・玉置泰司（中央水研）・棧敷孝浩（中央水研）・松浦勉（中央水研）



総会・理事会報告

本大会における学会総会は近藤信義氏（東京学芸大学大学院）を議長に選出し、9月24日11時50分より、福島市コラッセふくしま・5階小研修室において開催されました。またこれに先立ち、9月22日には同所において理事会が開催されました。以下、主な協議内容、報告事項についてご報告致します。

（1）新入会員承認

前回大会以降、新しく王莉莉（東京海洋大学大学院）、石川傑（北海道水産林務部）、山崎優輔（北海道大学大学院）各氏の入会が承認されました。

(2) 学会誌・短信発行について

昨年度発行の学会誌第44号は、シンポジウム報告の編集遅れなどにより、8月末発行の奥付からするとかなり発行が遅れてしまいましたが、このことについて編集委員よりお詫びの説明がありました。また、今年度は計画通り、春季研究集会の案内号を含めてニュースレターを4回発行しました。

(3) 次年度大会開催地およびシンポジウムテーマの計画

次年度大会開催地・会場については北海道・函館市を第1候補にすることとし、シンポジウムテーマを「新規漁業就業者確保・育成対策の現状と課題(仮)」と決めました。なお、ミニシンポを含めた詳しい内容については、シンポ担当理事(二平章、長谷川健二、山崎誠、上田克之、古林英一、濱田武士、三木奈都子の各氏)を中心に検討していくこととなりました。

(4) 決算・予算

2015年度決算(特別会計決算を含む)につきましても、田尾、山下両監事の監査報告を含め、原案通り承認されました。また、2016年度予算案についても原案通り承認されました。本ニュースレターp.5～6に承認された決算書、予算書を掲載しております。

(6) 春期研究集会について

今年度は東京で4月に会員多数の参加を得て春期研究集会を実施しました。次年度も東京で春期研究集会を実施することとしております。開催日と会場につきましては改めて連絡いたします。

学会誌編集委員会からのお知らせ

(1) 掲載料の徴収について

学会誌第42号から一般投稿論文で掲載が決定したのものについて、掲載料5,000円を徴収しております。掲載料は掲載が認められた後、速やかに学会費と同じ方法(郵便振替または銀行振込)で納入してください(振替口座、銀行口座の番号等は学会誌に記載)。

(2) 投稿原稿の送付先について

投稿規定に則り、昨年度と同様、学会誌への投稿原稿は学会事務局宛ではなく、下記編集委員会事務局宛お送り下さるようお願いいたします。シンポジウム報告者の方も原稿の提出を宜しく願います(コーディネーターの方は各報告者に連絡を!)。なお、編集委員会内の投稿原稿受付担当者は甫喜本憲氏(水産大学校)です。学会誌への投稿に関する連絡や問い合わせは甫喜本氏宛てにお願い致します。

<投稿原稿送付先> * 以前と宛先・メールアドレスが変わっておりますのでご注意ください!

759-6595 山口県下関市永田本町2-7-1 独立行政法人水産大学校
北日本漁業経済学会誌編集委員会宛 メールアドレス ; kitanihon@fish-u.ac.jp

(3) 学会誌第45号の原稿提出期限について

次号学会誌第44号に投稿される方は、**2016年2月末日**を目途に上記宛、メールないし郵便で原稿(打ち出し原稿3部+電子データ)をお送り下さい。なお、メールで投稿される方も、打ち出し原稿3部をメール投稿後速やかに郵送して下さい。また、添付して頂いた電子媒体につき

ましては、基本的にお返しできかねますのでご注意下さい。



＜北日本漁業経済学会第45回大会印象記＞

北海道大学農学院・水産経営経済学研究室
本多秀成

本大会において私は、タイムキーパーとして座長の方々のお隣に座らせていただき、原子力災害下における福島県漁業の復興に関する多くの報告を拝見することができた。ここでは簡単ながら、本大会シンポジウムの感想を述べさせていただきます。

まず午前中は、福島第一原発事故及びそれを踏まえて実施された操業自粛による、福島県沿岸の水産資源への影響についての詳細な報告をお聞きすることができた。ここでは魚介類の継続的なモニタリングを通し、現在はほとんどの魚種において放射性セシウムが検出されていないこと、また複数の魚種の資源量が増加していることが示された。そして、科学的には安全性が認められつつあり、消費者の安心を獲得できるような努力が必要であること、持続的生産の確保のために、本格操業再開後の資源管理方策について検討が行われていること等が報告された。

この午前の報告を前提に、午後からは漁業復興の推進に際し、検討すべき課題を大きく3つに整理したうえで、福島県漁業の現状及び今後の展望について議論がなされた。まず一つ目の論点は「水産物流通の再生」に関してであった。原発事故と汚染水漏出を受け、福島県では漁業自粛が続いているが、安全性が確認された魚種については2012年6月より試験操業が開始されている。そして徐々に対象魚種が拡大され、漁獲量も増加している。これにより、現地の漁業者の意欲も高まりを見せているとのことであった。また、この試験操業が漁業者のみならず流通関係者や県、国、有識者からなる福島県地域漁業復興協議会という枠組みの中で検討された点に注目し、今後の復興を進める際も様々な人の協働、ゆい・もやいの精神が重要であるとの主張もなされた。一方で、2015年の試験操業による漁獲量は震災前の6%弱と本格化には程遠いという現状も示され、風評問題に対してはまだ課題が山積しているとのことであった。

2つ目の論点は「トリチウム水問題」であった。この点については、トリチウムタスクフォースに参加されているコープふくしまの野中氏から報告があり、トリチウム水の処理方法として地層注入、地下埋設、海洋放出、水蒸気放出という4つの方法が検討されたこと、この内海洋放出が最もコストが小さいと試算されたこと、そして住民目線からはこの海洋放出と水蒸気放出は絶対に認められないこと等が述べられた。

そして3つ目の論点は「漁業者・漁協・漁村の行方」に関してであった。まず、旧避難指示区域に住んでいた漁業者の動向と関連し、人的・物的被害の実態や試験操業の展開状況などが報告された。そして、一部では後継者の新規参入が始まっており少数精鋭で復興の見通しがあること、他方では共同漁業権漁場を中心に漁業を営む多数の小規模漁家が試験操業に参加できていないという課題が示された。また、復興を進めるうえで重要な産地市場の開設に関しても、震災以前は旧漁協単位の運営がなされていたこともあり、本所と支所の調整がとれていないという問題も指摘された。

以上、原子力災害下の福島漁業の現状や今後の課題について様々な立場の方々からお話しを伺うことができた。特に印象的であったのは、複数の報告者から地域の連携についての言及があった点である。林氏の報告では「部分的な利害の違いを超えて全体の相互利益をゆずりあい、はなしあいによって目ざしてきた浜のコミュニティの文化が試されるときを迎えている」との見解が示された。今日の日本漁業は、漁業者数の減少と高齢漁家の増加が進むなかで地域漁業の再編が問われる局面にあり、林氏の指摘は福島のみならず日本各地の漁村に当てはまるものであろう。本大会ではこの点に関した議論を十分に深める時間がなかったと思われ、今後は浜の共同体とし

ての機能や漁村における社会関係資本に注目するような研究がより一層重要になると感じた。また、地域における連携を議論する上ではそこに住む人々の実態把握が必須になる。ただしこの点についても、限られた時間ゆえに不十分にならざるをえなかったと感じた。特に、現在の様々な取り組みについては詳細な報告をいただけた一方で、福島の漁業者の震災前後に関する動向については体系的に捉えきることができなかつたと感じる。本大会には福島県外からも多数の方々が参加されているのであって、福島県の各地の漁業者がどのような漁業を組み合わせた操業を営んできたのか、補償金や試験操業による漁獲を含めた現在の漁業者の経営がどのような状況にあるのかなど、今後の対応を検討する上での前提となる情報をもっとフロアで共有できたらよかつたのではないかと愚考する。とはいえ私にとっては、日ごろ生活している北海道では知り得ない現場の情報に触れることができ、大変貴重な時間を過ごすことができたと思っている。福島で奮闘されている全ての関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

2015 年度決算

○一般会計

			2015年度予算	2015年度決算	決算-予算			
収入	会費収入		929,000	1,315,000	386,000	個人は2年度分徴収		
		個人会費	669,000	1,075,000	406,000			
	会誌販売	団体会費	260,000	240,000	△ 20,000			
			18,000	18,000	0			
	雑収入	定期	15,000	18,000	3,000			
		臨時	3,000	0	△ 3,000			
			300	306,398	306,098			
		利子・利息 その他	300 0	398 306,000	98 306,000			
	計			1,894,600	1,639,398		△ 255,202	
	支出	印刷費		700,000	695,250		△ 4,750	43号 大会特別会計で支出
会誌			640,000	695,250	55,250			
事務費		大会要旨集	60,000	0	△ 60,000			
			120,000	145,670	25,670			
		文具消耗品費	10,000	5,709	△ 4,291			
		人件費	10,000	16,000	6,000			
特別会計繰出		郵送通信費	80,000	86,699	6,699			
		その他	20,000	37,262	17,262			
			250,000	250,000	0			
		鉶路大会特別会計 2016年春季研究集会	200,000 50,000	200,000 50,000	0 0			
計			2,140,000	1,090,920	△ 1,049,080			
収入-支出			△ 245,400	548,478	793,878			

○鉶路大会特別会計

収入	一般会計から繰入	200,000
	資料費	100,000
	懇親会費	136,000
	計	436,000
支出	諸経費	184,098
	懇親会	144,000
	要旨集印刷費	82,069
	計	410,167
収入-支出		25,833

○2016年春季研究集会

収入	一般会計から繰入	50,000
	資料費	17,000
	懇親会費	72,600
計		139,600
支出	諸経費	42,508
	懇親会	74,520
	計	117,029
収入-支出		22,571

会計監査報告書

2015年度(2015年10月1日~2016年9月16日)北日本漁業経済学会の会計報告について、領収書、預金通帳等の関連資料を監査した結果、適正に処理されており、決算報告書の記載に相違ないことを認めます。

平成28年 9月20日

監事 田尾直之 (印)
監事 山下成治 (印)

○資産額変動

前期繰越	3,200,071
一般会計収支残高	548,478
鉶路大会特別会計残高	25,833
2016年春季研究集会残高	22,571
次期繰越	3,877,753

○財産目録

北洋銀行	1,094,205
ゆうちょ銀行	1,155,465
郵便振替口座	1,543,920
現金	84,163
計	3,877,753

*****2016 年度予算*****

2016年度(2016年9月17日～2016年9月30日)

		2015年度決算	2016年度予算	備考
収	会費収入			
	個人会費	1,075,000	500,000	5,000円×100名分
	団体会費	240,000	240,000	10,000円×14件+100,000円×1件
	計	1,315,000	740,000	
入	会誌販売			
	定期	18,000	15,000	
	臨時	0	3,000	
	計	18,000	18,000	
雑収入	利子・利息	398	300	
	その他(賛助金など)	306,000	100,000	北海道漁連
	計	306,398	100,300	
	収入計	1,639,398	236,600	
特別会計残高	大会特別会計	25,833	0	
	春季研究集会	22,571	0	
	前期繰越	3,280,871	3,877,753	
	計	4,968,673	4,114,353	
支	印刷費			
	会誌	695,250	700,000	
	大会要旨集	0	0	大会特別会計へ
	計	695,250	700,000	
出	事務費			
	文具消耗品費	5,709	6,000	
	人件費	16,000	20,000	
	郵送通信費	86,699	100,000	
	その他	37,262	20,000	
	計	145,670	146,000	
特別会計操出	大会特別会計	200,000	200,000	
	春季研究集会特別会計	50,000	50,000	
	計	250,000	250,000	
	支出計	1,090,920	1,096,000	
	次期繰越	3,877,753	3,018,353	
	計	4,968,673	4,114,353	

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
会費納入のお願い

2016 年度の会費納入をお願いいたします。お支払いいただく金額は同封の請求書をご覧ください。請求書で請求金額が 0 円となっている場合は、すでに 2016 年度分をお支払いいただいております。1 月 15 日現在で請求書を作成しておりますので、入れ違いにお支払いいただいた場合はご容赦ください。

なお、第 45 回総会において、これまで 10 月 1 日から 9 月 30 日であった本学会の会計年度が 9 月 1 日から 8 月 31 日に変更されました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
ドキュメント映画「新地町の漁師たち」札幌上映会のお知らせ

第 45 回福島大会の懇親会で、上記映画を撮影した山田徹氏の紹介と山田氏本人からの挨拶がありました。札幌市での自主上映会が 3 月 19 日におこなわれます。本学会も後援団体に名を連ねております。チラシを同封しておりますので、この機会に本作品を鑑賞していただければ幸いです。なお、札幌上映会では、山田徹監督と本学会会員の濱田武士氏によるトークイベントも予定されています。

詳細は上映する会のウェブサイトをご覧ください。アドレスは、<http://a-ichi.blue.coocan.jp/shinchimachi.html>です。なお、本学会のウェブサイトからもリンクを張っております。

北日本漁業経済学会事務局（事務局長；宮澤晴彦）
〒041-8611 函館市港町3-1-1
北海道大学大学院水産科学研究院
海洋共生学講座・水産経営経済学分野
TEL 0138-40-8834 FAX 0138-40-8835
E-mail miyazawa@fish.hokudai.ac.jp